

すぎなみ Jukuseru? TIMES' 18 大人“熟”してる？

総合コース
コトバ・ラボ
#7

平成 30 年 11 月 9 日 発行
発行元：社会教育センター（事務局）

第7回
「子どもはどのようにして
言葉を獲得するのか？」
小林 春美さん
(東京電機大学)



10月26日（金）
午後7時～9時
於：明治大学和泉校舎 512 教室
受講生：30名

「文部科学省科学研究費補助金新
学術領域研究共創的コミュニケーションのための言語進化学」共催

第7回の講座は、「子どもはどのようにして言葉を獲得するのか？」という
テーマで、東京電機大学の小林春美教授をお迎えして、開催しました。

会場もセシオン杉並ではなく、明治大学和泉校舎をお借りしての講座で、
固定の机、倒して座るイスなど、懐かしい教室の感じに、学生気分になっ
て戻ったような、そんな講座となりました。

印象に残ったお話の中で、人間特有であり、コミュニケーションの基本とな
る「共同注意」(2人の人が同一の事物に同時に注意すること)がありました。

「共同注意」は、言語を獲得する前から現れ、言語獲得を促すことにもなり
ます。それは、生後9か月くらいから始まり、他者の存在を意識して外界の何
かを一緒に見ようとする行動となります。自分が外界の事物について感じたこ
とを親と共有しようとするようになるのです。

すぎなみ大人塾 2018 総合コース
コトバ・ラボ

10の
問い

8

大人になると
難しいのに、
なぜ子どもはどんな
言語でも習得する
ことができるの
だろうか？

いよいよ、このカードも残り
わずかとなってきました！



↑↑
(共同注意をしている写真)



ワークショップ1



「あなたは未知の言語圏に分け入った言語学者です。」

「G a v a g a i」の意味はなんでしょうか？

A：走っている姿

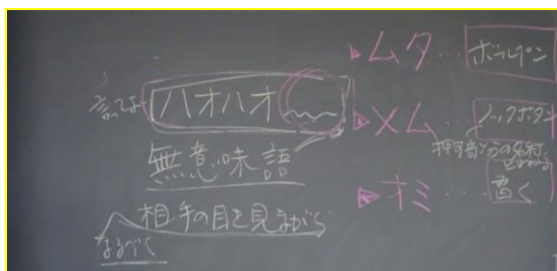
B：ウサギっぽい何か？

C：耳について

手前の動物を指さしている人は、動物の何を指さしたのかを考えるワークショップでした。

英語圏の国の人たちは、名詞的な意味「ウサギ」、「獲物」を答える人が多く、日本人は動詞で答える人が比較的多いとのことでした。日本人は言葉を獲得する過程で、オノマトペ（動詞的表現）を通過して、成人語へ移行していく（例えば、車の事を「ブーブー」と最初覚えて、後に「車」に変化していく）というのも興味深いお話でした。

ワークショップ2



「無意味な言葉を、なるべく相手の目を見ながら、相手に伝えてみましょう。」(注：以下の言葉は全て無意味語です)

・「ハオハオ ムタ」 (ムタ＝ボールペン)

・「ハオハオ メム」 (メム＝ロックボタン)

・「ハオハオ オミ」 (オミ＝書く)

3人1組になって、上記の書かれた紙をそれぞれに持ち、同じグループの人にジェスチャーもOKで伝えてみました。



皆さんの感想より

- ・どうやって言葉を獲得するのか？という事だと思っていたが、子どもはどう行動して言語を習得していくのか視線と動作で言葉を習得していくのかを学べた。
- ・共同注意という単語は初めて聞いたが、言語獲得の重要な手段ということが、良く判った。
- ・生得的に子どもが能力を持っているという話は驚いた。ワークショップは楽しかったが、共有することの難しさを感じた。

次回は、「A Iはどのように言葉を扱うのか？」です。お楽しみに！！